

京都精華大学

2021年度 入学試験問題

座席番号

【小論文】(2月3日)

時間 14時30分～16時

【注意】

- 一、解答はすべて「解答用紙」に書くこと。
- 二、用具は黒鉛筆またはシャープペンシル(H、F、HB、B)、消しゴム、鉛筆削り用具のみとし、それ以外の使用は認めない。
- 三、出題に関する質問は受け付けない。

*この問題用紙は座席番号を記入の上、試験終了後返却すること。

【問題】

次の文章は、山本太郎著『疫病と人類』（朝日新書、二〇二〇年十一月）の一部です。文章を読んで、次の設問に答えてください。

新型コロナウイルス感染症の流行が今後どのような軌跡をたどるのか、現時点で正確に予測することはできない。ただ流行が拡大し、遷延すれば、あるいは新型コロナウイルス感染症とは異なるが致死率の高い感染症が今後流行すれば、私たちは、私たちが知る世界とは異なる世界の出現を目撃することになるだろう。それがどのような社会かは、もちろんわからない。しかしそれは、一四世紀ヨーロッパのペスト流行時のように、旧秩序アンシャンレジームに変革を迫るものになるかもしれない。そうした変化は、流行が収束した後も続く。後から振り返れば、世界の秩序の転換点だったということになったとしても不思議はない。

繰り返しになるが、感染症は社会のあり方がその様相を規定し、流行した感染症は時に社会変革の先駆けとなる。そうした意味で、感染症のパンデミックは極めて社会的なものとなる。その時代、時代を反映したものととして、という意味ではあるが。

歴史が示す一つの教訓かもしれない。

「社会」が感染症を選び取る

これまで私たち研究者は、なぜ、ある感染症が流行するのか、その原因を一生懸命に考えてきた。しかし、どうやらその「考え方」は「逆」ではないかと、最近思い始めている。流行する病原体を選び、感染症のパンデミックを性格付けるのは、「社会のあり方」ではないかと。

古くは、中世ヨーロッパの十字軍や民族移動によってもたらされたハンセン病。産業革命が引き起こした衛生環境の悪化が広げた結核。世界大戦という状況下で流行したインフルエンザ、植民地主義と近代医学の導入がもたらしたエイズ……。その意味では、今回の新型コロナウイルス感染症や未だアフリカを中心に流行収束が見られないエボラも例外でない。

ヒトの行き来により格段に狭くなった世界。とどまるところを知らない熱帯雨林の開発や地球温暖化。それらと相まって、野生動物の生息域が縮小し、ヒトと動物の距離が縮まった。野生動物と共存していたウイルスは調和を乱され、行く場所を求めてヒト社会に入り込んでくる。新興感染症がひんぱんに発生する理由はそこにある。

加えて、増加した人口、都市への密集、世界の隅々まで発達した交通網が感染拡大の原動力となる。現代社会は、新型コロナウイルスのようなウイルスの出現と拡散の双方にとって「格好」の条件を用意しているのである。それは社会のあり方が変わることによって、さらに変わっていく。

私たち人間社会は、これまでも変わってきた、そしてこれからも変わっていくだろう。その時にどのようなウイルスが流行するか、それは、社会のあり方が規定する。そしてその時々ウイルスは、常に、私たち人間社会の脆弱な点を突くかのように流行するだろう。

そうした考え方に立てば、ウイルス感染症にとって「強い」すなわち強固な社会というもの

の絶対的なたちというものはないことになる。だとすれば、ウイルスのパンデミックが今後
も起こることを前提にした社会を創っていくことは、一つの重要な選択肢になる。そして、そ
れはおそらく、多様で、変化に柔軟な社会ということになるのではないか。そうした社会は、
監視的で強権的な社会では達成できない。市民のエンパワーメントを通じた民主的手法を通じ
た社会が求められる所以でもある。

選択可能な未来へ向けて

問題は、それがどのような社会かということになる。国民国家からそれを超えた国際的な連
帯への転換点となるのか。あるいは監視的分断社会の訪れの始まりになるのか。人や物、情報
が地球規模で流動化するグローバル化によって今回のパンデミックが特徴づけられるとすれば、
世界がこれほど驚愕している姿は示唆的でもあった。

コロナ後の社会が、情報技術（IT）を主体にした社会へと転換するのは間違いない。しか
し情報技術はあくまで道具であって、目的ではない。それをどのように使うかは、私たち一人
ひとりが考えるべき問題として残る。

その時に大切なことは、明日への「希望」だと思う。

二〇年以上も前に、アフリカでエイズ対策をしていた。現在のような治療薬はなく、予防が
唯一私たちにできる対策だった。村から村へと回り、感染予防の重要性を説く。しかし、それ
がなかなか上手くいかない。ある日、一人の青年がつぶやく。「二〇年後は、エイズじゃなくて
も飢餓とか暴力とか、戦争で亡くなっている。いま、エイズ予防をする意味はあるのか？」

対策がうまくいかなかったのは、彼／彼女らの理解が足りなかったわけでも、私たちの説明
が悪かったわけでもなかった。ただ、彼／彼女らが、一〇年後の自分を想像できなかったから
だった。

社会がどうあるか、どう変わっていくか、どういう希望のもとにあるべきか、というのは、
一人ひとりの心のなかにしかない。それが合わさって、未来への希望につながる。言葉を換え
て言えば、選択可能な未来は私たちのなかにしかないということかもしれない。

多くの災厄が詰まっていたパンドラの箱には、最後に「エルピス」と書かれた一枚の紙が残
されていた。古代ギリシャ語でエルピスは「期待」とも「希望」とも訳される。パンドラの箱
を巡る解釈は二つある。パンドラの箱は、多くの災厄を世界にばら撒いたが、最後には希望が
残されたとする説と、希望あるいは期待が残されたために人間は絶望もすることもできず、希
望とともに永遠に苦痛を抱いて生きていかななくてはならなくなったとする説である。

パンドラの箱の物語は多分に寓意ぐうい的であるが、暗示的でもある。しかしそれがどちらであろ
うと、希望を未来へとつなげていくのは私たち自身でしかない。

設問1

文中で著者は、「流行する病原体を選び、感染症のパンデミックを性格付けるのは『社会のあり方』ではないか」と述べています。著者がそのように考える理由を、百五十文字以内で説明してください。

設問2

文中で著者は、感染症対策が進む今後の社会のあり方について、「社会がどうあるか、どう変わっていくか、どういう希望のもとにあるべきか、というのは、一人ひとりの心のなかにしかない」と述べています。また、「選択可能な未来は私たちのなかにしかない」とも述べています。このような著者の考えをふまえて、あなたが今、考えている今後の「コロナ後」の社会のあり方と、その社会のもとでの自分の暮らし方について、六百字以内で述べてください。